Viva Greens

グリーンズ千葉ニュース　No.20

―地球規模で考え、
活動は足元から―

2021年4月　春号

―Contents―

P1　コラム　風に吹かれて
P2　コロナがくれた　悲しみ　幸せ
P3　あえて、ウィズコロナ
P4　「コロナ」後の社会を考える
P5　今後も種子を守るために、私たちにできることは何か
P6　スーパーシティー構想とソサエティー5.0
P7　『SDGｓ』は「緑の党の理念」とは違う
P8　あたらしい知事にのぞむこと

コラム、「風に吹かれて」（今さら聞けないネット知識）

柘植　扶佐子　（松戸市）

数年前、ガラケイからスマホに替えた(見栄からです)。その時、店員さんから「おうちの中、ワイハイ飛んでいますか?」と聞かれた。はぁー？新種のハエか？と思ったのだが、たぶん飛んでいるのだろうと思い「あっはい、飛んでます。飛んでます。」と返事。そしてワイハイをネットで調べたら「Wi-Fi は無線でネットワークに接続する技術のことです。wireless Fidelity（ワイヤレス　フィデリティ）という。」

そうかそうか、電線を使わないのだ。

今さら聞けないネット知識、山ほどある。そんな中、世の中どんどん進んで、コロナ禍で会議や講演会、イベントはほとんどリモートである。ついて行けない。くやしい、淋しい、ストレスたまるし、老人である。そして飛行機のチケット、お金の出し入れ、賃貸契約、私にとって大事なことばかりがスマホの中を要求される。「便利ですよ」と言われても～

コロナがくれた　悲しみ　幸せ

吉田　あち（真澄農園）

●多様な農業研修生

昨年春より農業研修生が押し寄せている、今も続いている。「農業インターシップ」という国の制度で、登録された農家に最低2日間から2ヶ月まで研修の希望を出せる。履歴の他、農業に寄せる思いや何故その農園を希望するのかなどの資料のFAXが届く。以前よりみんな本気で「農」の生活を目指しているので受け入れるしかない、希望の日にちは第一、二、三とあるのでこちらに合わせてもらう、電話をして相手の気持ちを確かめ、コロナ感染状況も確かめ、混雑の無い時間の電車で来てもらったりする。劇的に感染者が増えた新年は昼飯を畑や作業場で食べたり、車の中は窓を開けたり気を使った。

12月に来た58才の医療機器販売のエリートの男性は規則も厳しく、絶対ディスタンスを守る、僕がちょっと動くとすぐに離れる、飯は一緒に食べない、でも研修後も休日は毎週のように仕事をしに品川から高級スポーツカーでやってくる、「街の中ではみんなコロナに見えてくる」と息抜きに畑に来るみたい、以前ステロイドでも治らなかった頑固で強烈な手荒れが「飲尿療法」で1週間で治ったよとの言葉には強烈な拒否反応を示した、「インドの首相も飲んでたし、悲惨な戦地でも役に立ったよ、免疫の情報効果が高まるそうですよ」、「うーん、免疫系統かー」と首を傾けながら考えていた。

●マスクが嫌い、コロナを信じない

今度はサイババが手から出したイエスの写真でもみせたろか。またコロナを信じない59才の高校の教師の男が来た、マスクが大嫌いでワクチンなんてとんでもないという。トランプの支持者たちみたいだ。学校辞めるから働かせてくれだと、やだよ、甘すぎる。定年まぢかのゼネコンの現場監督も、1週間泊まり込みで研修に来た。でもやはり多いのは30位の人たちだ。妻の実家の八戸をこよなく愛し、そこで農業をしたいとジャパネット高田を辞めて研修に来た30才、NHKで働く妻も2月には辞めて青森に行くと決めていた。以前研修に来た男が八戸で百姓をしているので紹介したら実にすぐそばだという。すぐに連絡を取り合い、共に大喜び、凄い縁である。また先日来た就職希望の産休中の小学校の女性教師の旦那も八戸の酪農の実家育ちだと、なんで八戸が続くのだろう。やばいやつは時々断る、でも3月もいっぱい来るよ。

●落語のような世界

マスクをするのは買い物で店に入る時だけ、数か月に一度洗う、何の怯えもない、ただ次女の麻実が8か月間、コロナ病棟で看護していたので、日々彼女と接する妻のマサが感染する危険はあった。でも病棟での感染はないし、様々な病気を持った人が入院してくるから勉強になるし楽しいとのこと、たいしたものだ。

毎日、全国の感染者数を祈るような気持ちで確認している。海外のニュースも毎日見ている。ともかく早く収まってほしい。インド音楽のシタールの公朗は2年前に脳梗塞で意識の戻らない妻の美郷さんを毎日見舞いに行き体を解したり音楽を聞かせたりしていたが、昨春から面会が出来なくなった。毎朝奇跡のラーガを彼女に向けて演奏するだけと辛そうだ。音楽家たちは誠に困った日々が続く。特に仲間のヒッピー音楽家たちは実社会から遠くに住む仙人みたいやつらばかり。持続化給付金は申請した方がいいよと何どもアドバイスし、申請も手伝った。その後もみんななんとか生きている、ゴキブリみたいなたくましさだ。

暮れに南正人「ナミさん」は横浜でライブ中に倒れ、息子の腕の中で息を引き取ったいう美しい伝説がヒッピー仲間たちが電話をしまくった。2月には美麻村の「遊学舎」の吉田ひとしさんが美麻の家に病院から帰り10日後に亡くなった。妻で車椅子のセイコさんの「かれの身も心もきれいにして送りだす」との決意は仲間たちを動かし、大雪の中生活全般の多くのサポートをえた。死ぬとすぐ大宴会が、焼かれるまで続いた、セイコさんは「超濃厚な密で感染の心配はあった、でも今で2週間、ほっとしたわ、骨はともかくばらまくわ」、「俺食べたい、送って、封筒でいいから」。送られてきた写真にはセイコさんがみんなに担がれ、冷たいひとしさんと絡み合わされた落語のような世界があった。

あえて、ウィズコロナ

山浦　恵津子（東京都）

新型コロナウィルスの問題は魑魅魍魎ですね。
私はテレビをあまり見ず、ネットも不得手でアンテナが低いのですが、そんな私のところにも、実にいろんな情報が飛び込んできます。中国の生物兵器説、アメリカの人工ウイルス説、インフルエンザ説、ビル・ゲイツの人口削減説、PCR 検査懐疑説、ワクチン危険説などなど。

●恐怖と不安で簡単に判断停止

私は目を白黒させるばかり。何が本当のことなのか、全くわかりません。新聞や雑誌の記事、人に聞いても意見は実に様々。

カミュの『ペスト』は感染症に出会った時の心構えを教えてくれますし、スチャリット・バクディの『コロナパンデミックは本当か？』は人が恐怖と不安で簡単に判断停止してしまうことがよくわかります。これらわかること、わからないことを整理し、兎に角、自分で判断し、行動していくしかないのですね。そして、判断しても情報は刻々変化しますので、常に検証していなければならないすごい状況ですね。

それに普段は人と考えが違っていてもあまり気にならないのですが、今回は命が絡んでくることなので間違っていないかどうか、不安は尽きません。

特に、先日東京新聞(2021．2．9)に岩田健太郎さんが「ゼロコロナを目指せ」と題して、「ウィズコロナなんて甘いことを言っていてはいけない」、ゼロコロナという「正しいビジョンを持つべきなのだ」と主張されていました。私の知人も何人か賛意を示していました。

でも、私はちょっと違和感。何事にも甘い私はコロナにも甘くなってしまうのです。今はどこに行っても強い薬でシュッシュッと殺菌しますが、私は体を守ってくれている善玉菌まで殺したくないので逃げまわっています。どうしても吹きつけられそうになったら、「自分でやります！」と、持ち歩いている竹酢液やびわエキスでシュッシュッと善玉菌の応援物資を送ります。

元々、私は東洋医学やシュタイナーのアントロポゾヒィー医学の考え方がすきなのですが、そこではウイルスは敵ではないのです。ウイルスは私たちの体の中や外にいっぱいいます。野菜、水など食べ物の内外、動物の内外、空気中にも。現にウイルスと共存して、ウィズウイルスで私たちは生きています。ですから、病気になるのはウイルスのせいというより、私たち自身の免疫力の問題の方が大きいという考え方です。

●本物の友愛のベーシックインカムの実現を

とにかく、コロナ問題は判断に迷いますが、できるだけ、
一律の休校やイベント中止、店舗閉鎖などしないで、
概ね個人に任せてほしいと思います。

そして、これをよい機会にベーシックインカムの考え方が広まればいいなと思います。
もちろん、竹中平蔵さんのいう偽ベーシックインカムではなく、みんなが幸せになる本物の友愛のベーシックインカムの実現をすすめたいです。

「コロナ」後の社会を考える

小林孝信（月刊ミニコミ誌 『たんぽぽ』編集部）

◆出尽くした議論

このテーマでの課題の多くはこれまで市民運動が求めてきたことで、ほぼ出尽くして実践段階といえます。軍需膨張、沖縄基地、五輪「騒動」などの問題も「コロナ」で税金の無駄遣いとしてより可視化しています。ただ、市民はピンチをチャンスにしたいのですが、一方で、富裕層・支配層もますます水膨れ中。対抗軸をどう構築し運動化するかが今こそ求められています。

◆地元から地球まで

一例として、東葛地域での地元誌『たんぽぽ』でのほぼ毎月掲載の特集タイトル（一部）からも今後の課題が見えてきます。

『コロナから見える日本社会』『軍事より防疫・防災費』
『世界の取り組み』『政権交代を！』『一人も取り残さない社会を！』
などなど。このなかで、自粛強制と改憲を阻止し平和戦略、
武器よりコロナ対策、ヘイト行動阻止、食糧危機対応、ネオリベを阻止し
信頼できる政府の確立（NZやカナダの例）、自治体の主体性、
「障碍者」施設の状況改善、PCR 検査への市民行動などを訴えてきました。

◆一般誌の指摘（『PP』『現代の理論』『市民の意見』『先駆』『世界』など）から

すでに取り組まれている重要な指摘も含まれています。自然共生、分散社会、ESG 投資（環境・社会・ガバナンス）、取引税、隠れ資産 31 兆ドル利用、生産性から必要性へ、情報一元の危険（デジタル化、マイナンバー）阻止、分権非実践の自治体に自治力を、銀行の公費救済でなく福祉支援。感染原因の自然破壊、人工集中、無制限グローバル化、格差増大の制限、経済成長、効率主義、便利優先から定常型へ。人びとの社会主義的要請に対し支配層の国家社会主義誘導を阻止。小農経営で食糧自給。豊かさを本来の「幸・健」へ。国連「世界停戦」への呼応。コロナ以外の災害対応力アップなどなど。

総じて、SSE（連帯経済）、協同組合の可能性、「障碍者」視点などが弱いといえます。今後、運動相互のネットワークをもっと「密にして」、「住みよい社会」をめざすことが結局、「対コロナ」の核心でもあるのです。

今後も種子を守るために、私たちにできることは何か

中井 孝子（タネちばの会 事務局）

●全国で 21 番目の種子条例が制定

2018 年 4 月に主要農作物種子法(種子法)廃止後、日本の農業政策は相変わらず世界の流れに逆行し続けています。その一方で、市民や生産者が声をあげ、自治体が意見書を国に提出し、廃止後の 2 年で種子法に代わる種子条例を制定する道県も増えています。私たちの住む千葉県にも、2020 年 9 月議会において満場一致で可決され、「千葉県主要農作物等種子条例」が翌 10 月 20 日に施行されました。全国で 21 番目の条例制定です。

「主要農作物等」とあるように、稲・大麦・小麦・大豆だけでなく、落花生が含まれていることが千葉県の条例の特徴です。また要綱で記されていた「農業競争力強化支援法の趣旨も踏まえ」という表現がなくなり、民間事業者の参入が推進される心配はひとまずなさそうです。

種子法廃止直後、すぐさま条例を制定したのは兵庫県・新潟県・埼玉県でした。そのとき千葉県が制定したのは「主要農作物種子対策要綱」でした。公的種子の安定供給を継続するには要綱では不十分だと考えた有志が集まり、2018 年 10 月に「種子を守る千葉県条例制定を求める実行委員会（タネちばの会）」を発足させました。

●県内の農作物を食べて守ること

タネちばの会は最終的には約 80 人がメンバーになってくださいました。実際の活動は選出された運営委員が中心に進め、メーリングリストで情報共有を行いました。JA との意見交換や議員へのロビー活動、他団体との交流など 2 年間の間に種子条例の必要性を多くの人に知ってもらうよう様々な活動に取り組みました。2019 年 4 月の統一地方選には政策提案運動として議員に質問状を送り 20 人から回答をいただくことができました。その時の回答では「種子条例はよくわからない」「要綱で十分だと考える」などの回答も多くみられ、条例制定までは遠い道のりだと感じたことを思い出します。

他県から条例制定の知らせがある中、終わりの見えない活動に焦りを感じていた 2019 年 12 月、議員や県庁に、条例制定にむけた動きが出てきたという情報が入り、2020 年 3 月には種子条例案に関するパブリックコメントの募集がありました。116 人から 252 件もの意見が出されました。これは画期的なことです。市民や生産者が声をあげ、条例ができたことは大きな成果です。しかしこれで終わりではありません。これからも県内の農作物を食べて守ることが私たち消費者の役割ではないでしょうか。2020 年 12 月には種苗法が改正されてしまいました。今後も種子を守るために私たちにできることは何か、一緒に考えていきましょう。

スーパーシティー構想とソサエティー5．0

田中　正治（グリーンズ千葉運営委員）

日本政府のスーパーシティー構想とは、5G、IoT（モノのインターネット）、Bigdata、AI など最先端情報技術を基礎に、社会インフラを効率的に管理運営して、社会の在り方の根本的変革をめざす都市計画とされている。車の自動運転、ドローン配達、キャッシュレス決済、遠隔医療、介護補助ロボット、GIGA スクール、遠隔監視など、超便利都市が想定されている。あなたはこの都市にわくわく派、それとも、ついていけない派？

◆人間は知ることができないブラックボックス

スーパーシティー構想は、政府が掲げる「ソサエティー5.0」に向けた社会実験でもある。現在の情報社会（ソサエティー4.0）では、サイバー空間にアクセスして人間が情報やデータを入手し、人間が分析し、結論を「提案」している。だが、ソサエティー5.0 では逆に、膨大な情報やデータが Bigdata としてサイバー空間に集積され、その Bigdata が AI によって解析され、その結論が人間に「提案」され、この AI の「提案」に基づいて AI ロボットが行動し、人間の課題を解決するという。だが AI による「提案」の理由はブラックボックスで、人間は知ることができない。君は AI を信じて、人間が理由を知ることができない「提案」を受け入れる？それとも拒否？

◆一部エリートが AI とロボットを駆使して

政府は、ソサエティー5.0 を「人間中心の社会」と規定するが、多くの仕事はテクノロジーに代替されるという。テクノロジーを中心に置き人間を排除した社会は「人間中心の社会」といえるのかな。また「必要なものやサービスを、必要な人に、必要な時、必要な量だけ提供」することが可能になるという。その実態は、一部エリートが AI とロボットを駆使し、大多数の人間には、提供される商品やサービスの消費者としての役割しか与えられないことを意味しないか。このような社会にあなたは住んでみたいか？

◆プライバシーよりも便利さを選ぶ？

スーパーシティー構想の有識者会議座長は竹中平蔵で、 内閣と自治体首長及び事業者で構成される「区域会議」には、住民参加は保証されていない。この「区域会議」は竹中平蔵が言う「ミニ独立国家」で、最適に未来都市をデザインしビッグビジネスに歓迎されている。「データ連携基盤整備事業」計画に基づき民間企業は、政府や自治体に情報提供を要求することができ、国家や自治体が持つ個人情報や、民間企業が持つ行動履歴など、個人データが一元化され、住民の個人情報保護が形骸化されるなら、事実上「区域会議」＝「ミニ独立国家」による誘導社会、監視都市が出現することになるかも。プライバシーよりも便利さを選ぶ？それとも？

『SDGs』は「緑の党の理念」とは違う

武笠 紀子（グリーンズ千葉代表）

●グローバルグリーンズ憲章と比較して

『SDGs』がメディア等で取り上げられることが多くなりました。企業も『SDGs』を前面に出しての CM を始めました。政治家も SDGs バッジをつけていたりします。　2015 年 9 月の国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(2030 アジェンダ)のことですが、17 の国際的開発目標と 169 の達成基準が示されています。一見すると良さそうな項目が並んでいるのですが、2001 年に採択された『グローバルグリーンズ憲章』と比べてみました。なかには共通する項目がいくつかありますが、決定的に違うことがあります。

グローバルグリーンズ憲章では「私たちは地球の環境的・資源的制限の内に生きていることを学び、私たちは動物や地球上の命、そして大地や水、大気、太陽といった自然の要素によって維持されている命そのものを守り、私たちの知識は制限的なものであることを認識した上で、現在及び将来世代のための資源がふんだんであり続けることを確約するために、注意深く将来への道筋を描くことが要求される。」とあり、これまでの私たちの暮らし方、生き方を変えようとしていて、地球とそれを共有する全ての生き物を大切にしようとの思いがあるのです。

●途上国の資源開発や経済成長を支援するもの

『SDGs』は、良く読むと、今の国際的な課題を、これまで進めてきた「人類による開発と経済成長」によって解決しようとするものです。貧困や飢餓の対策、気候変動対策、海や陸の豊かさを守るための対策なども、これからの開発事業や技術革新でなんとかしようという考え方です。例えば「途上国に対する貿易のための援助拡大」「途上国の年7%の成長率の確保」「開発重視型の政策の促進」「持続可能な観光業を促進」「世界の農産物市場における貿易制限や歪みを是正及び防止」「科学研究を促進、技術能力を向上」「天然資源の持続可能な管理および効率的な利用を達成」「世界の輸出に占める開発途上国のシェアを倍増」「小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増」「土地と土壌の質を改善させるような持続可能な食料生産システムを確保し強靭な農業を実践」等々、後は先進国がお金を出して途上国の資源開発や経済成長を支援しようというものです。これでは「地球」がかわいそうだという項目がいくつも並んでいるのです。

私たちは、「持続可能な」という言葉にだまされることなく『SDGs』をもっと良く調べ、検討して、「緑の党の理念」と同じものには賛同して、「緑の党の理念」に反するものには、しっかりと異議を申し立てていく必要があると思います。

SDGs とは？

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称　　柘植 扶佐子

国連加盟 193 ヵ国が合意する、2030 年までの達成を目指した 17 の目標

1-貧困をなくそう　2-飢餓をゼロに　3-すべての人に健康と福祉を　4-質の高い教育をみんなに
5-ジェンダー平等を実現しよう　6-安全な水とトイレを世界中に　7-エネルギーをみんなに　そしてクリーンに
8-働き甲斐も経済成長も　9-産業と技術革新の基盤をつくろう　10-人や国の不平等を無くそう
11-住み続けられる　まちづくりを　12-つくる責任　つかう責任　13-気候変動に具体的な対策を
14-海の豊かさを守ろう　15-陸の豊かさを守ろう　16-平和と公正をすべての人に
17-パートナーシップで目標を達成しよう　　（環境雑誌より）

あたらしい知事に望むこと

吉野 信次（市民自治をめざす1000人の会）

●県民無視の県政に逆行させないこと

千葉県知事選の告示がされ、現在選挙中で、この『ビバグリーンズ 20』が発行されたときは、新知事が誕生している。堂本知事の 8 年(01～09)後に誕生した森田県政 12 年間は、「失われた 12 年間」「働かない知事」ではなかったか。特に、一昨年の台風時の危機管理対応で大きな批判を浴びたことは記憶に新しい。今回の知事選では、「森田県政」のような県民に向き合わない県政を継続させてはならないことだと思っている。

●4 年前のような知事選はできなかったが

4 年前の知事選では、市民団体や市民有志、労働団体と野党が連携して、「あたらしい知事を選ぶ会. 千葉」を発足させ、「県民の意見を聞いてくれる知事をつくろう」と候補者を擁立した。しかし選挙結果は、経験したことがないような「惨敗」であった。「あたらしい知事を選ぶ会 2021」では、6 つのプロジェクトを立ち上げ重要な政策をまとめ上げてきたが、候補者の擁立は断念せざるを得なかった。森田知事が出馬をしないこと、熊谷千葉市長が出馬すること等で野党共闘という形が作れなくなったことが大きな要因であった。

●勝手連で「県民主体の県政」誕生を！

自民党の本部や県連の大半が応援した前県議の関候補に対して、自民党の一部、公明党が「自由投票」という形で支援した熊谷前千葉市長を、立憲民主党、国民民主党、日本維新の会、社民党などに加えて無所属の自治体議員たちも応援した。

私たち、市民運動に関わる市民たちの中では、野党共闘という選択肢ができない中で、「よりましな県政」をつくるために各地で熊谷候補の応援をする人たちが多く生まれた。東葛地域では市民自治をめざす 1000 人の会呼びかけによる緊急相談会が開催された。熊谷後援会が作成した政策についての検討会を経て、熊谷後援会の布施顧問を招いて意見交換も行われた。熊谷候補を応援する勝手連としての活動もした。コロナ禍で従前の知事選ができない中で、投票率が極端に低くなることが危惧された。私たちは、有権者に投票に行くこと、県民との対話とコロナパンデミックや巨大災害の大きな要因となっている気候危機に対する取り組みが重要であることを訴えた。

私たちがあたらしい知事に望むことは、重要な施策について県民に情報を開示し、県民が主体的に考え、行動できる県民参加の県政である。

『グリーンズ千葉』は、千葉で「緑の社会」の実現をめざして
活動します。「緑の社会」とは、すべての生命を大切にし、
公正・平等・非暴力で、多様性を尊重し、みんなで政治に参加する
持続可能な社会のことです。

〒 271-0092　千葉県松戸市松戸 1879-24 ほくとビル5F
Tel/Fax 047-360-6064　　https://greens-party-chiba.jimdo.com/
入会・カンパ募集中！郵便口座:00120-1-687008